

華岡青洲の妻

四幕

製作 松竹

新派百三十年記念に相応しい名作で贈る大型企画!

本年(二〇一八年)は一八八八年に新派が創始して以来百三十年に当たる記念すべき年となります。

同時に平成二十八年九月に市川月乃助から喜多村緑郎を襲名、

二十九年一月に市川春猿から河合雪之丞に改名した二人の俳優の

劇団新派入団も含む全国公演でのお披露目の公演となります。

演目は、医学の世界を描いた有吉佐和子不朽の名作、『華岡青

洲の妻』を取り上げます。世界初の全身麻酔手術の成功を収めた

陰には嫁姑が競って人体実験を望んだ女同士の壮絶な戦いが、発

明のエネルギーになったと言うエピソードを劇化した当作品は、昭

和四十二年の初演以来今日まで杉村春子を始め錚々たる名優たちが演技の火花を散らしてきたスケールの大きな、加えて数々の記念公演に相応しい作品です。

今回は、息子の成功を願う母・於継役に水谷八重子、麻酔薬の

完成に執念を燃やす医師・華岡青洲役に喜多村緑郎、献身的に

つくす妻・加恵役に河合雪之丞、そして想いを秘めた妹・小陸役に

波乃久里子、と豪華な配役が実現いたしました。

どうか平成三十年代の松竹新派特別公演で日本演劇史上に残

る素晴らしい作品を、堪能頂ければ幸いです。

【あらすじ】

江戸時代中期、天明の頃。紀州の名門・妹背家の娘・加恵(河合雪之丞)が隣村の貧乏医者、華岡家に嫁いできた。

花婿の青洲(喜多村緑郎)は三年前から京都で医学の修業の身。花婿のいない祝言ではあったが、加恵は満ち足りていた。なぜなら、加恵は幼い頃に評判の気品のある於継(水谷八重子)を垣間見て憧れをもっていたので、理想の女性としていたその於継から直々に嫁にと望まれて、この上ない幸福を感じていたからだ。

加恵は華岡家の人となるよう励んだ。於継も嫁の加恵を大事にして、その仲睦まじさは人も羨むほどであった。ところが、青洲が京都より帰郷すると、その様子は一変し、青洲をめぐり姑と嫁の凄まじい女の争いが始まった。

そうした女の感情には無頓着な青洲は医学の研究に夢中で、むしろ妹の於勝(甲斐京子)の乳癌を救えなかつた自分への不甲斐なさに苦しむのであった。

それから、麻酔薬の研究や癌の手術などに没頭し、紀州きつての名医といわれるまでになった。研究も進み麻酔薬の完成には、人体実験を残すだけになると、於継と加恵は競って実験に身を捧げようと言い出した。

そして、数年の後、加恵と、既に亡くなった於継との総てを見ていた小陸(波乃久里子)の姿があった。

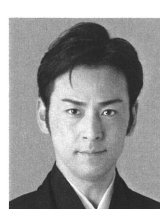
作	有吉佐和子
演出	齋藤雅文
美術	古川雅之
照明	北内隆志
音楽	平井澄子
効果	秦大介
演出補	成瀬芳一
舞台監督	古山昌克
同	瀬尾健児
制作事務	中川亜紀
制作協力	大迫辰己
制作	松本康男
同	本田景久
同	金谷庸平
同	野村英孝



矢野淳子



久藤和子



市川猿丸改め 喜多村一郎



市川猿若改め 河合穂積



喜多村次郎



水津竜也



深谷美由姫



市川笑三改め 河合誠三郎